

# 報告書抄録

ふりがな	ほうぞうぜんじいせき つばきだにいせき							
書名	法蔵禅寺遺跡 椿谷遺跡							
シリーズ名	近畿自動車道名古屋神戸線（大津～城陽）建設事業に伴う発掘調査報告書							
編著者名	堀 真人 神保忠宏 瀬口真司							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			公益財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	大津市京町四丁目1番1号			大津市瀬田南大萱町1732番2号				
発行年月	平成30年（2018）3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ほうぞうぜんじいせき 法蔵禅寺遺跡	おおつしなかの 大津市中野 さんちようめ 三丁目	252018	201-256	34° 57' 4"	135° 57' 19"	20150722 ↓ 20150828	310㎡	近畿自動車道 名古屋神戸線 建設事業
つばきだにいせき 椿谷遺跡	おおつしなかの 大津市枝 さんちようめ 三丁目	252018	201-323	34° 55' 58"	135° 56' 36"	20160425 ↓ 20161129	11,600㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
法蔵禅寺遺跡	その他	不明（近現代か）		造成工事		陶磁器		
椿谷遺跡	生産遺跡	大正時代～		石切場・石積・ 砂防堰堤		ガラス瓶・金属棒		
要約	<p>法蔵禅寺遺跡</p> <p>調査では、表土を除去し遺構の有無と平坦面の堆積状況、および時期の確認を目的とした。結果、遺構は確認できなかったものの、平坦面を造るために2回以上の造成があったことを確認した。なお、時期については、造成土中から遺物が出土しなかったため確定できなかったが、表土から近代の陶磁器片が出土しており、現況の平坦部は近代に畑地として大き改変している可能性が高い。</p> <p>椿谷遺跡</p> <p>調査は、遺構の範囲を確認しながら現況測量を行った。その結果、花崗岩の石切場と石積、砂防堰堤を確認した。『明治三十五年以降森林開墾台帳』によって大正4年（1915）から大正9年5月末日まで石材採取の許可を得ていたことから、石切場は少なくとも大正4年以降から大正9年かけて操業したと考えられる。</p>							